

(様式第4号)

上田市庁舎改修・改築検討委員会 会議概要

1 審議会名	上田市庁舎改修・改築検討委員会
2 日時	平成28年9月1日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階 会議室
4 出席者	高木直樹会長、丸山正明副会長、伊藤英一委員、小野将司委員、金井美奈子委員 沓掛由利子委員、小山陽三委員、藤川まゆみ委員、不破泰委員、宮本智夫委員
5 市側出席者	宮川総務部長、小野塚財政部長、峰村都市建設部長、清水契約管財担当参事、柳原 総務課長、山口財政課長、久保田行政改革推進室長、田村建築課長、馬場契約管財 課長、若林工事検査政策幹、小林庁舎管理係長、三井建築係長、北島政策企画担当 係長、渡辺公共施設マネジメント係長、宮原建築課担当幹、吾妻契約管財課主査、 野田建築課主任、荒木建築課主任
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	3人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	平成28年9月15日

協 議 事 項 等

1 開 会 (馬場契約管財課長)
2 委嘱書交付 母袋市長から委嘱書を交付
3 あいさつ (母袋市長)
4 委員紹介 (事務局紹介)
5 上田市庁舎改修・改築検討委員会について 資料に沿い、小野塚財政部長から上田市庁舎改修・改築検討委員会について説明
6 会長・副会長選出 会長に高木委員、副会長に丸山委員を選出
7 会長・副会長あいさつ (高木会長、丸山副会長)
8 検討・協議事項 (1) 委員会の運営について ・資料に沿い、馬場契約管財課長から委員会の運営について概要を説明 ・質疑等なし (2) 庁舎の改修・改築について ・資料に沿い、馬場契約管財課長から庁舎の現状について、田村建築課長及び馬場契約管財課長から 庁舎の耐震改修の基本設計について説明 ・以降、質疑応答 (委員) Is 値について確認したい。その建物において最低値を基準として考え、最低のところ弱い で全体が危険だと判断されるということでもいいか。 (事務局) 基本的にはそのとおりと考えてよい。弱いところがあると全体に影響が出る。 (委員) この補強の仕方は県の合同庁舎と同じとらえていいか。 (事務局) イメージ的には合同庁舎の補強と同じ。補強箇所、補強方法については若干違う部分はあるが、 補強するという点については同じ考え方である。 (委員) 耐震診断の結果、市役所の場合、同じ建物であっても南北方向だけが数値が低いというのは、1、 2階が吹き抜けになっているからか。どんな建物でも東西南北で診断すればこういう違った数値 が出るのが普通なのか。 (委員) 関連して、この数値から行くと南北方向に倒れやすいということだと思うが、南北方向は柱の数 が多く、東西は柱の数は少ない。Is 値が南北と東西が逆ではないか。

- (事務局) 基本的に低層部分は1階に吹き抜けがあったりして、かなり弱いという結果が出ている。
- (事務局) 南北方向は柱が確かに多いが、耐震壁に該当する壁が少ない。東西方向は柱が少ないと言われているが、スパンが短いという関係があって、全体のバランスでは、耐震診断結果としては南北方向の補強が多い、イコール、そちらが弱いという結果が出ていると思う。
- (事務局) この件については次回あらためて整理して報告する。
- (委員) 費用について、ずいぶんかかるという印象がある。これは、業務を継続しながら改修をするから余計にかかるということはないか。
- (事務局) その要素もある。工期が延びるほど経費、工事費はかかる。
- (委員) 改修のやり方としては、1階・2階部分をやって、3階をやったという改修計画で見積もっているということではないか。
- (事務局) 工事を行うには最低2フロアずつ移動していき、その間に工事をその移動した箇所について進めていく考え方である。
- (委員) その間は市民の方が、例えば市民課に来ると、上の方で工事する音が起きることは我慢してもらおうということか。
- (事務局) そのとおり。
- (委員) これだけ大きい施設がどこかへ移るのはなかなか難しいんだろうと思う。
- (委員) 耐用年数としては60年ということだが、改修するにせよしないにしても、60年経ったらその建物は建て替えないといけなくとも考えるものか。耐用年数の考え方、指針あれば教えてほしい。
- (事務局) 耐用年数というのは、60年経てば壊れるとか、使えなくなるということではない。日本建築学会の建築工事標準解説でコンクリートの部材の耐久性として60年。建築学会の建築物の耐久計画に関する考え方では、官庁・公共の施設の耐久性目標の耐用年数は50年から80年と示されていて、代表値として60年ということが一般的に使われている。60年間何もしないでもつということとはほとんど考えられない。
- (委員) 過ぎたら早めに建て替えるということか。それとも、修理をして使えるものはもう少し延ばすということか。
- (事務局) もともとの市役所の計画が補強をするということで、基本計画をやった。ただ、費用がかかって、耐用年数自体は60年で変わらないが、修繕を加えながら、長寿命化を図ることも念頭に補強をしようとした。ただ、それでも10年、20年経てば、その時点ではもっと本体が劣化するということは想定される。
- (委員) これほどすごい耐震補強の工事案・例というのは見たことがない。これ以外の、ブレースを設置する方法以外の方法、例えば長野県庁のように地下に免震層を設けるといような方法は不可能ということか。
- (事務局) 耐震診断、基本設計を行った段階で検討した経過もある。その中で、この在来的な鉄骨等による補強というのが一番安価な方法である。免震、制震という工法は不可能ではないが、費用がかかるということで、最低限の費用ということでまとめた。また、免震に関しては、地下部分等に建物の揺れを吸収するための装置を付けるが、実際に建物が揺れた場合に他のところに影響しないクリアランススペースが必要だが、高層棟を免震にした場合、低層棟部分を一度部分的に壊さないとクリアランススペースがとれないので、費用面に加え実際の施工にも問題があるという検討結果がある。
- (委員) バリアフリーへの対応が困難というところで、耐震工事をすることによって21億円かかるが、バリアフリーにするとさらにかかるという結論でいいか。
- (事務局) 耐震補強をしてもバリアフリーへの対応は限度がある。現在もバリアフリーへの対応が難しい上に、耐震補強をやればさらに具合が悪くなる部分もあり、一部解消される部分もあると思うが、トータル的にはバリアフリーへの対応はこの耐震補強だと難しいということが設計した中では出てきた。
- (委員) 上田市も行政の部分で温室効果ガスの排出量削減計画はあるか。耐震補強の省エネ対策で少なく

とも市が掲げている目標はクリアできるとか、これだと難しいということを環境部門の方に確認しておいてほしい。

(事務局) 一定の数値は出せるのではないかと思われるので、確認して次回説明する。

(委員) 災害が発生したときに、上田市の構想ではこの建物の中に災害対策室ができるのか、それとも別の丈夫な建物があって、そこに作る予定があるのか。

(事務局) 市の防災計画で、災害対策本部を作る場合はこの本庁舎に一番先に設置することになっている。本庁舎が壊れた場合、次にはどこという順番は決めてある。今、現在は会議室等を使って対策本部室を設置して、そこに今ある情報の手段を使って、本部機能を持たせるという形で運用している。

(委員) 耐震工事に併せ、付帯工事で電気設備幹線の別ルートの構築というのがあるが、このルートの構築の中に LAN についての配慮もあっていいか。

(事務局) ここでの耐震改修に伴う電気設備の幹線ルートの改修というのは、そういった部分の改修ではない。

(委員) それについてはまたこれから議論をするということか。

(事務局) 別途必要になる。

9 現庁舎の状況確認

会議後、委員は本庁舎へ移動し、現地において市役所の現状について事務局から説明を受け確認した